ヨド倉庫

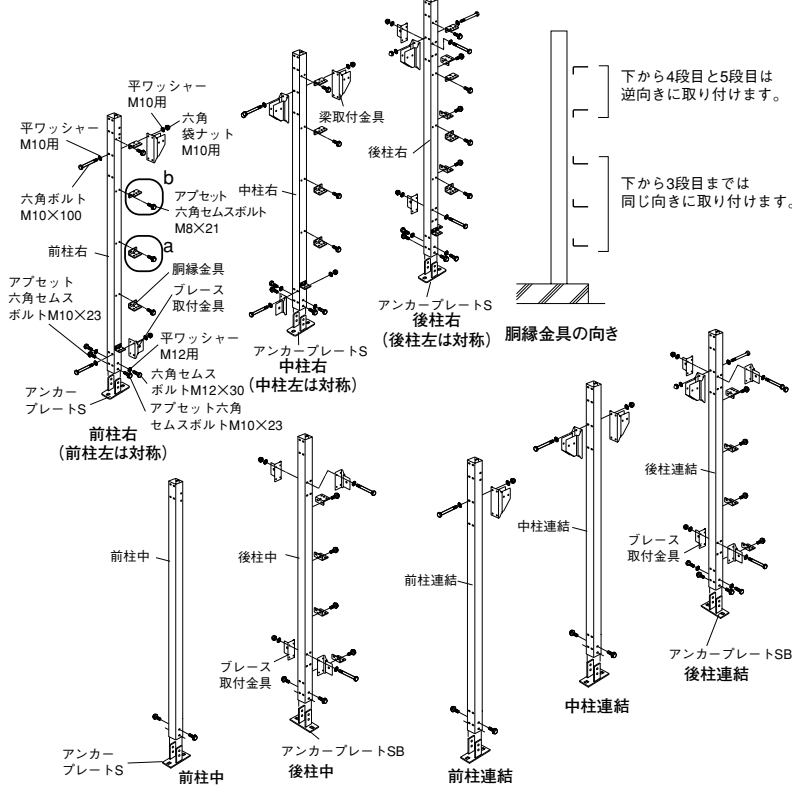
組立説明書 1

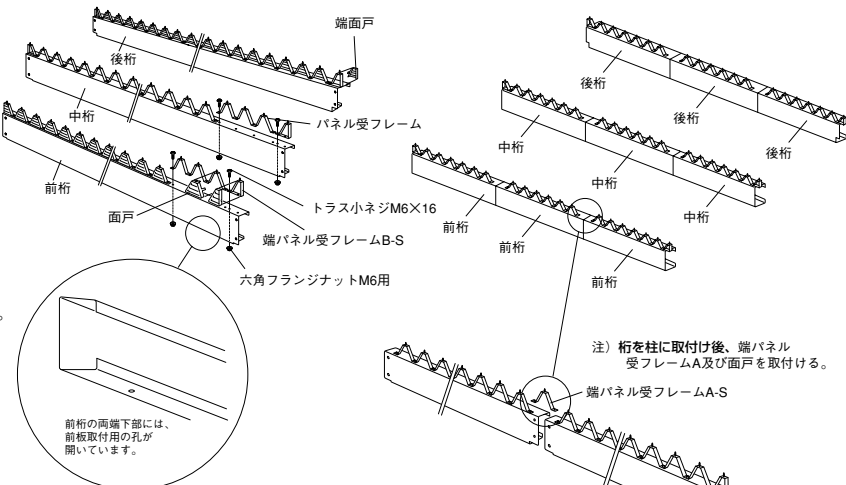
SOBU-8657型 (L)・(M)・(H)・(FH)

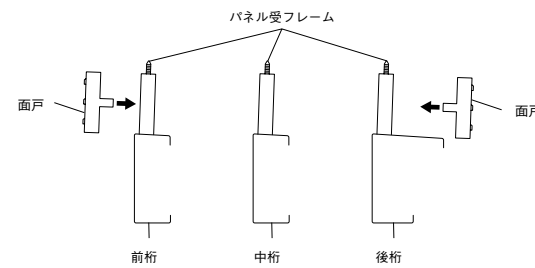
※SOBU-8657M型

※組立説明書1・2の順で組立てください。

1 前工程（1）

①梁取付金具を柱に取付けます。（六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用）
②胴縁金具を柱に取付けます。（アプセット六角セムスボルトM8×21）
※三段目までは図aのように取付け、四段目からは図bのように取り付けます。
③後柱中及び後柱連結にアンカープレートSBを取付け、それ以外の柱にアンカープレートSを取付けます。
（アプセット六角セムスボルトM10×23）
④ブレース取付金具を図のように前柱右（左）及び中柱右（左）の下部に取付けます。
（六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用）
⑤同様に後柱右（左）及び後柱連結の上下にもブレース取付金具を取付けます。
（六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用）

2 前工程（2）

①桁にパネル受フレーム及び端パネル受フレームを取付けます。
（トラス小ネジM6×16、六角フランジナットM6用）

②面戸及び端面戸をパネル受フレーム及び端パネル受フレームB-Nにかぶせ左右のツメを折り曲げて取付けます。
※前桁と後桁では面戸の取付け向きが違いますので図を見て間違わないように確認してください。

パネル受フレーム
面戸
面戸
前桁
中桁
後桁

3 柱

①柱をアンカーボルトに固定します。

単棟の場合

前柱左
中柱左
後柱左
前柱中
中柱中
後柱中
前柱右
中柱右
後柱右

連棟の場合

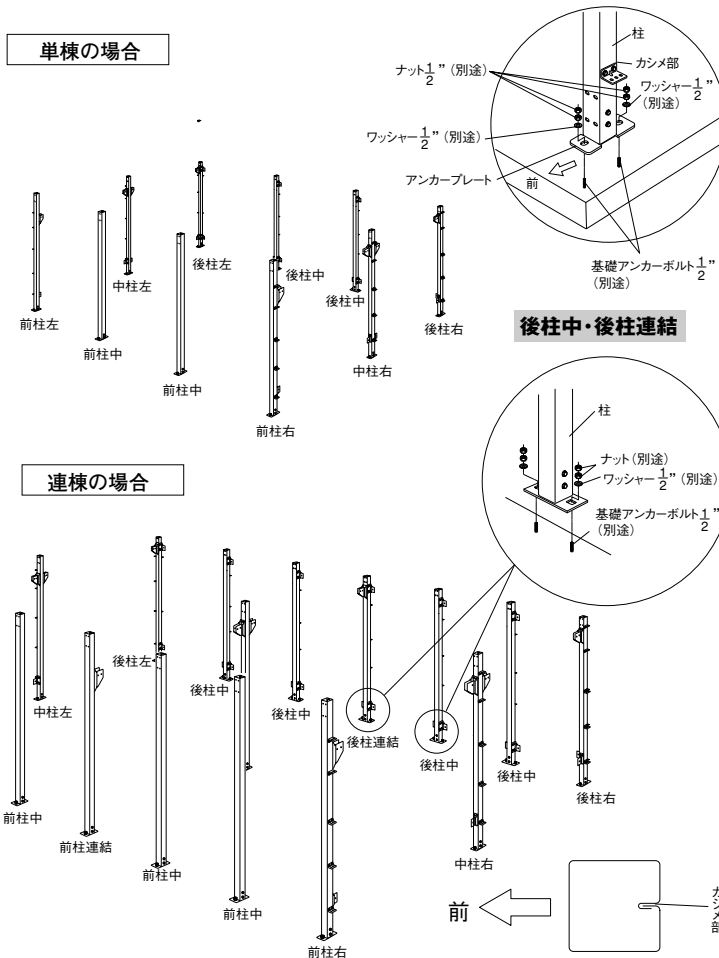
前柱左
中柱左
後柱左
前柱中
中柱中
後柱中
前柱連結
中柱連結
後柱連結
前柱右
中柱右
後柱右

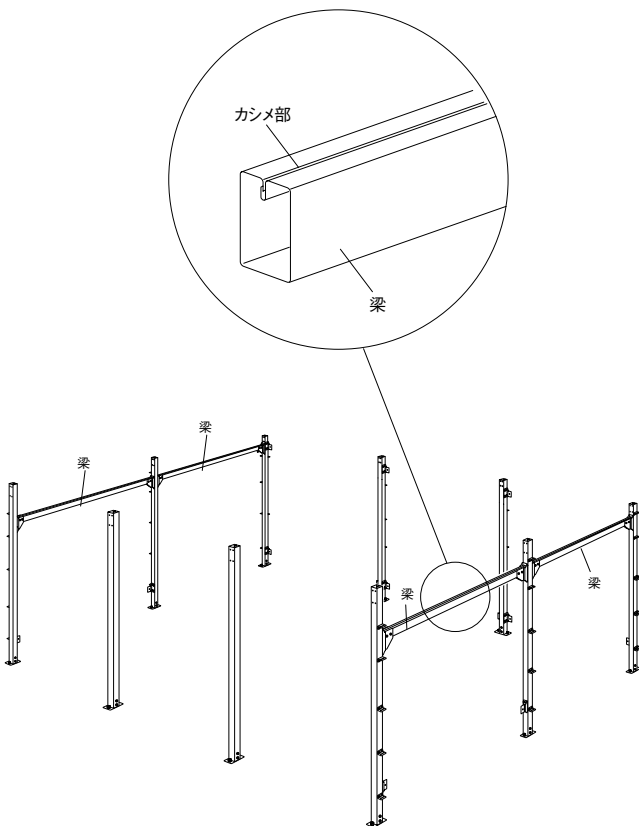
前柱・中柱・後柱左右

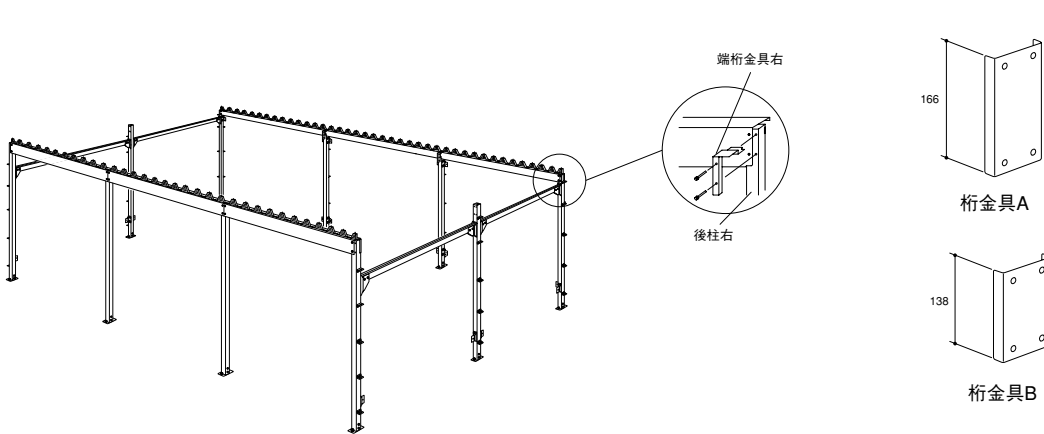
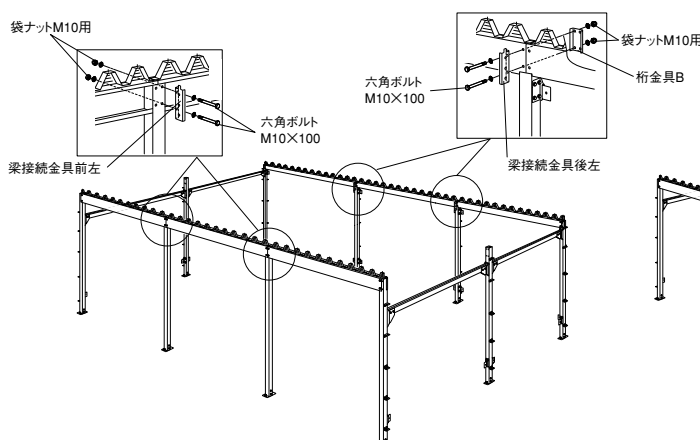
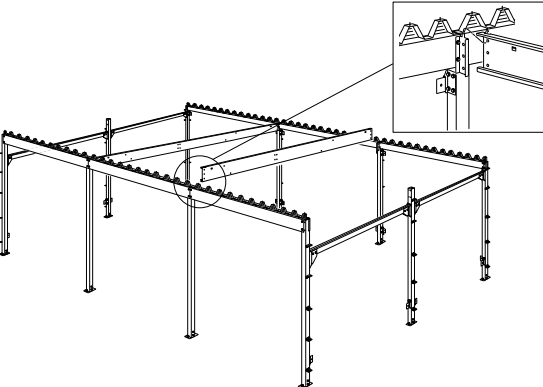
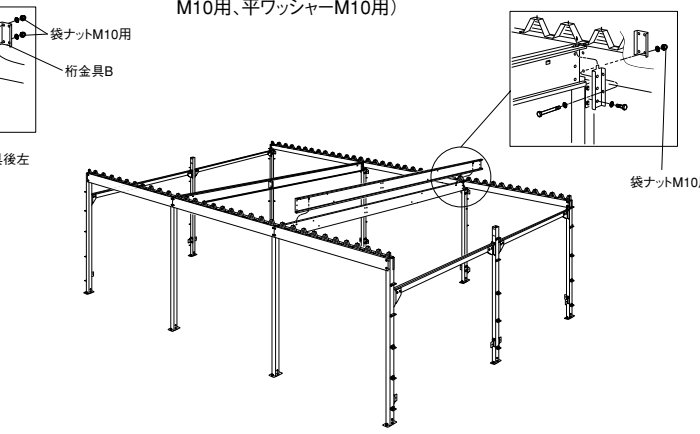
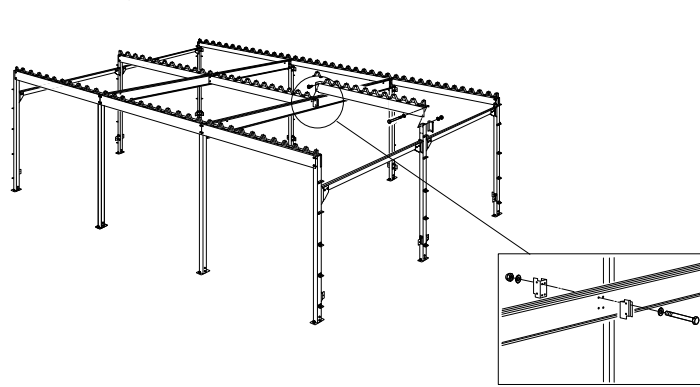
ナット $\frac{1}{2}$"（別途）
カシメ部
ワッシャー $\frac{1}{2}$"（別途）
ワッシャー $\frac{1}{2}$"（別途）
アンカープレート
前
基礎アンカーボルト $\frac{1}{2}$"（別途）

後柱中・後柱連結

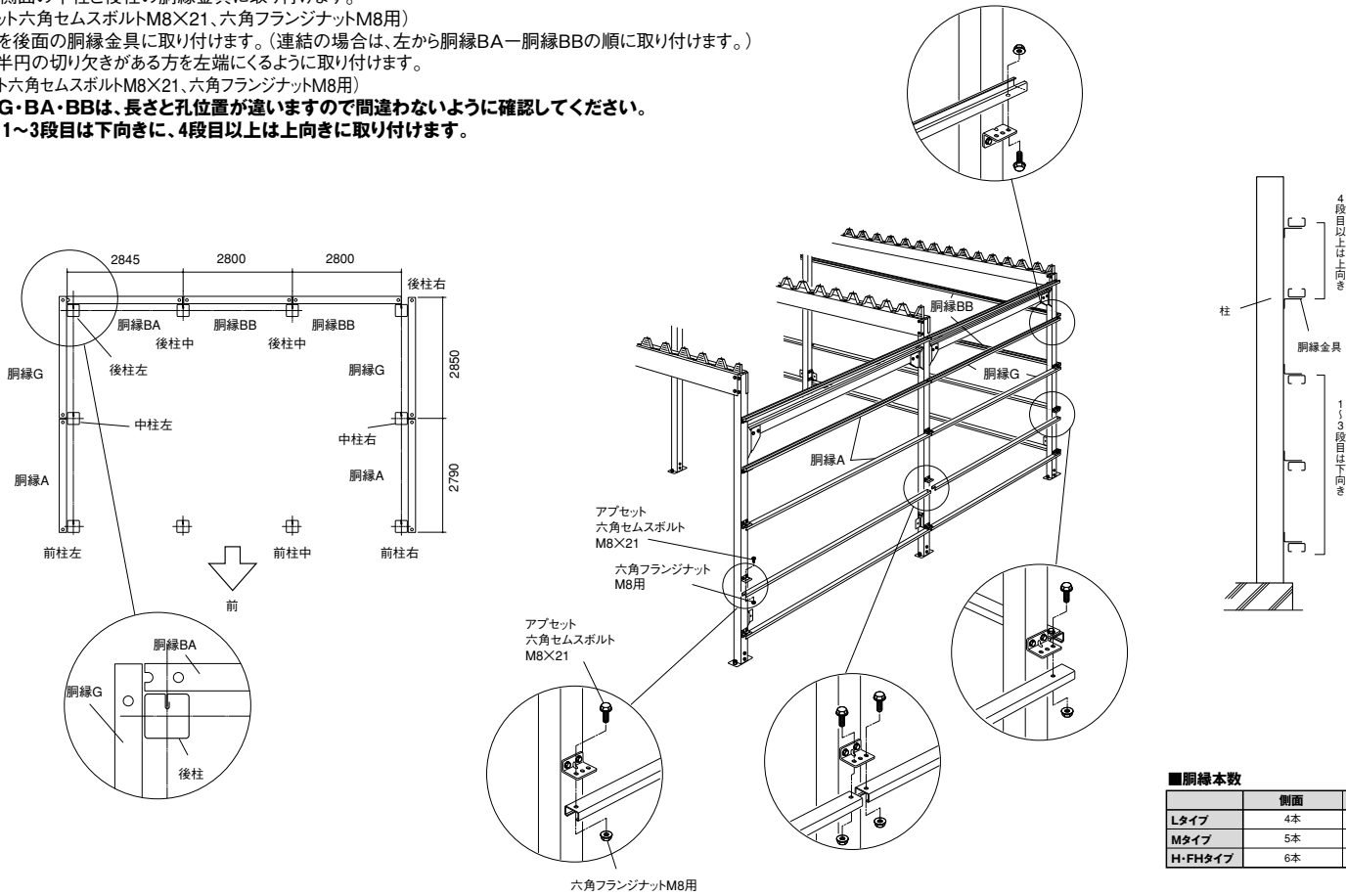
柱
ナット（別途）
ワッシャー $\frac{1}{2}$"（別途）
基礎アンカーボルト $\frac{1}{2}$"（別途）

前
カシメ部

4 梁

①梁をカシメ部が上にくるように各柱に取付けた梁取付金具に上から差込ボルト止めします。（六角ボルトM10×70、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用）

5 桁及び大梁（梁55A・梁55B）

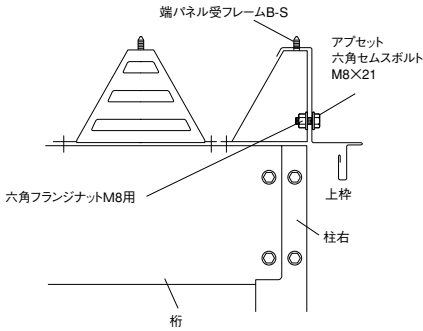
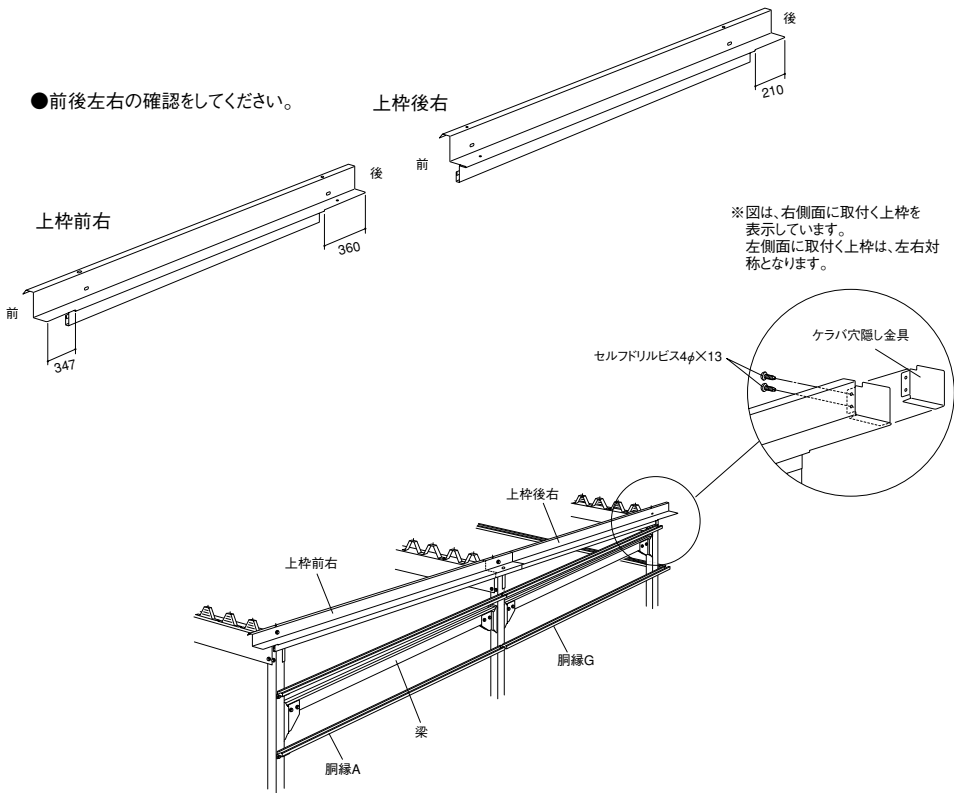
①桁を柱に仮預けし、前柱・中柱は桁金具Aと一緒にボルト止めします。（M10×100六角ボルト、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用）
後柱は桁金具Bと一緒にボルト止めします。（M10×100六角ボルト、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用）
※後柱の左右については端桁金具を取付ける為、桁のみをボルト止めしてください。

②前桁（前柱中部）に梁接続金具前左を、後桁（後柱中部）に梁接続金具後左を取付けます。
（M10×105六角ボルト、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用）

③梁接続金具前左・後左に梁55Bをを仮預けします。

④梁55Bに梁55Aを仮預けします。
⑤前桁（前柱中部）に梁接続金具前右を、後桁（後柱中部）に梁接続金具後右を取付けます。（M10×105六角ボルト、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用）

⑥大梁（梁55A・梁55B）に桁受金具を取付け、中桁を取付けます。
⑦梁55Aと梁55Bをボルトで固定します。

6 胴縁

①胴縁Aを側面の前柱と中柱の胴縁金具に取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用）
②胴縁Gを側面の中柱と後柱の胴縁金具に取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用）
③胴縁BAを後面の胴縁金具に取り付けます。（連結の場合は、左から胴縁BA―胴縁BBの順に取り付けます。）
この時、半円の切り欠きがある方を左端にくるように取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用）
※胴縁A・G・BA・BBは、長さと孔位置が違いますので間違わないように確認してください。
※胴縁は、1～3段目は下向きに、4段目以上は上向きに取り付けます。

柱
4段目以上は上向き
胴縁金具
1～3段目は下向き

■胴縁本数

	側面	後面
Lタイプ	4本	4本
Mタイプ	5本	4本
H・FHタイプ	6本	5本

7 上枠

①上枠後を端パネル受フレームB−Sに取り付け、次に上枠前を取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用）
②ケラバ穴隠し金具を上枠後に取付けます。
（セルフドリルビス4ϕ×13）

8 ブレース

※全てのブレースを取り付ける事により、建築基準法上の風荷重・地震荷重に耐える構造となっていますので、必ず全てのブレースを取り付けてください。

側面のブレース取付

①ブレースを側面前の梁取付金具とブレース取付金具に取付けます。（アプセット六角セムスボルトM10×30、六角ナットM12用、平ワッシャーM12用）
※側面にオプション框ドア・引戸・補助ドアが来る場合は、ブレースの取付け位置を変更する必要がありますので、次の【オプション框ドア・引戸・補助ドアを取付ける場合】を先に確認してください。

■側面

ブレース
開口部

六角フランジナット
M10
アプセット六角
セムスボルト
M10×30
ブレース取付金具

■側面ブレース配置表

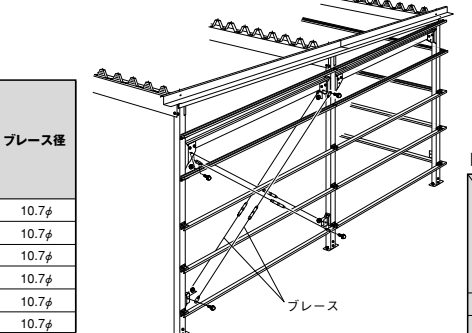
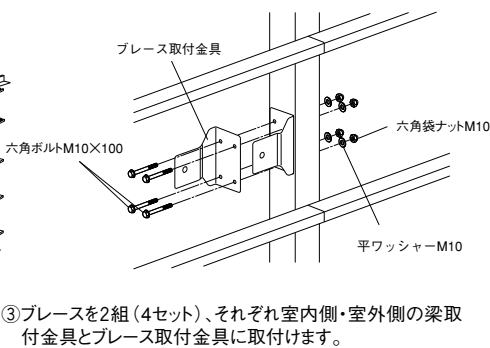
機種 ＼ 連棟数	Lタイプ ℓ=3015mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=1845mm) 前	Lタイプ 後	Mタイプ ℓ=3310mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2140mm) 前	Mタイプ 後	ブレース径
単棟	○	○	○	○	10.7ϕ
2～3連棟	○	○	○	○	10.7ϕ
4連棟	○	○	○	W	10.7ϕ
5連棟	○	○	○	W	10.7ϕ
6連棟	○	W	○	W	10.7ϕ
7連棟以上	○	W	○	W	10.7ϕ

機種 ＼ 連棟数	H・FHタイプ ℓ=3575mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2375mm) 前	H・FHタイプ 後	ブレース径
単棟	○	○	10.7ϕ
2～3連棟	○	○	10.7ϕ
4連棟	○	○	10.7ϕ
5連棟	○	○	10.7ϕ
6連棟	○	○	10.7ϕ
7連棟以上	○	W	10.7ϕ

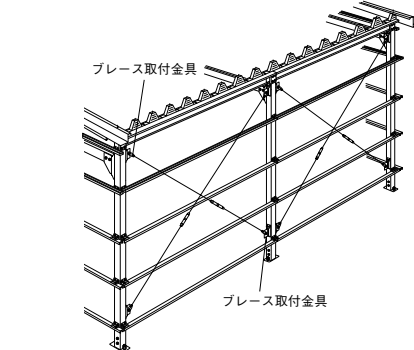
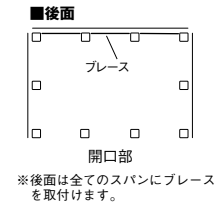
○:必要　×:不要　W:ダブルブレース

オプション框ドア・引戸・補助ドアを取付ける場合

※側面にオプション框ドア・引戸・補助ドアを取付ける場合、ブレースの取付位置を変更します。
（後面にはオプション框ドア・引戸・補助ドアは付きません。）
①開口部を取付ける側のブレース取付金具を外します。
②外したブレース取付金具を開口部を取付けない側のブレース取付金具と一緒に向かい合わせで取付けます。
又、ブレース取付金具を外したところには、再度ボルトのみを取付け、柱の孔を隠します。

③ブレースを2組（4セット）、それぞれ室内側・室外側の梁取付金具とブレース取付金具に取付けます。

ブレース

後面ブレースの取付

①ブレースを柱上部のブレース取付金具と柱下部のブレース取付金具に取付けます。
（六角ボルトM12×30、平ワッシャーM12用、六角フランジナットM12用）

■後面

ブレース
開口部
※後面は全てのスパンにブレースを取付けます。

ブレース取付金具
ブレース取付金具

■後面ブレース配置表

機種 ＼ 連棟数	Lタイプ ℓ=3015mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=1845mm)	Mタイプ ℓ=3310mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2140mm)	ブレース径
単棟	○	○	10.7ϕ
2連棟以上	○	○	10.7ϕ

機種 ＼ 連棟数	H・FHタイプ ℓ=3575mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2375mm)	ブレース径
単棟	○	10.7ϕ
2連棟以上	○	10.7ϕ

○:必要　×:不要

屋根ブレースの取付

①ブレースを全ての桁間に取付けます。
（アプセット六角セムスボルトM10×30、六角フランジナットM10用）

■屋根面

開口部
ブレース

■屋根面ブレース配置表

機種 ＼ 連棟数	Lタイプ ℓ=3635mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2400mm) 前	Lタイプ 後	Mタイプ ℓ=3635mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2400mm) 前	Mタイプ 後	H・FHタイプ ℓ=3635mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2400mm) 前	H・FHタイプ 後	ブレース径
単棟以上	○	○	○	○	○	○	10.7ϕ

○:必要　×:不要

中間ブレースの取付

※連棟数により強度を確保するため、連結部分にブレースを2組（4セット）取付ける必要があります。必要数は下記の表で確認してください。また、中間ブレースは、ブレースで区切られた面積が均等になるように配置してください。

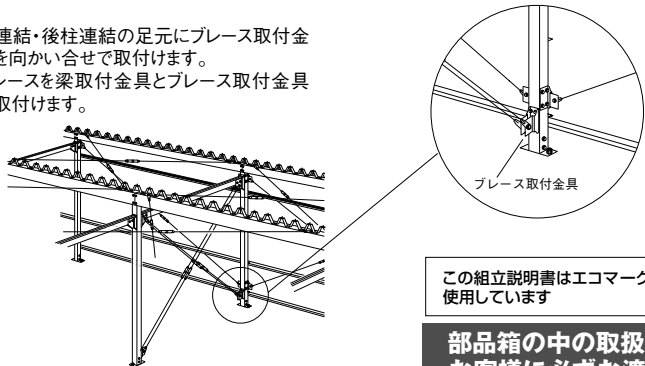
■連結部

機種 ＼ 連棟数	Lタイプ ℓ=3015mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=1875mm) 必要本数	Lタイプ 必要箇所	Mタイプ ℓ=3310mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2170mm) 必要本数	Mタイプ 必要箇所	ブレース径
2連棟	4	1	4	1	10.7ϕ
3連棟	8	2	8	2	10.7ϕ
4連棟	12	3	12	3	10.7ϕ
5連棟	16	4	16	4	10.7ϕ
6連棟	20	5	20	5	10.7ϕ
7連棟	24	6	24	6	10.7ϕ
8連棟	28	7	28	7	10.7ϕ
9連棟	32	8	32	8	10.7ϕ
10連棟	36	9	36	9	10.7ϕ

機種 ＼ 連棟数	H・FHタイプ ℓ=3575mm (ℓ1=1080mm + ℓ2=2405mm) 必要本数	H・FHタイプ 必要箇所	ブレース径
2連棟	4	1	10.7ϕ
3連棟	8	2	10.7ϕ
4連棟	12	3	10.7ϕ
5連棟	16	4	10.7ϕ
6連棟	20	5	10.7ϕ
7連棟	24	6	10.7ϕ
8連棟	28	7	10.7ϕ
9連棟	32	8	10.7ϕ
10連棟	36	9	10.7ϕ

①柱連結・後柱連結の足元にブレース取付金具を向かい合せで取付けます。
②ブレースを梁取付金具とブレース取付金具に取付けます。

ブレースの取付確認

①倒れ、通り、対角等を正確に出してください。
（今後の組立に支障がでてきます。）
※柱の傾きが5mmを超えるとシャッターの開閉に、支障をきたす場合がありますのでサゲフリ等で寸法の確認を必ず行なってください。

この組立説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています

部品箱の中の取扱説明書はお客様に必ずお渡しください。

（SOBU-8657）1
ヨドコウ
淀川製鋼
2007.8月制作

ヨド倉庫

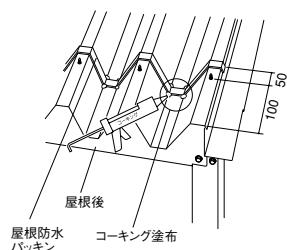
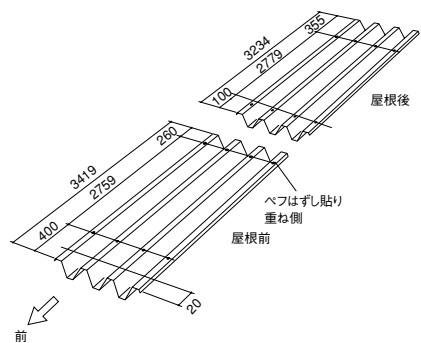
組立説明書 2

SOBU-8657型
(L)・(M)・(H)・(FH)

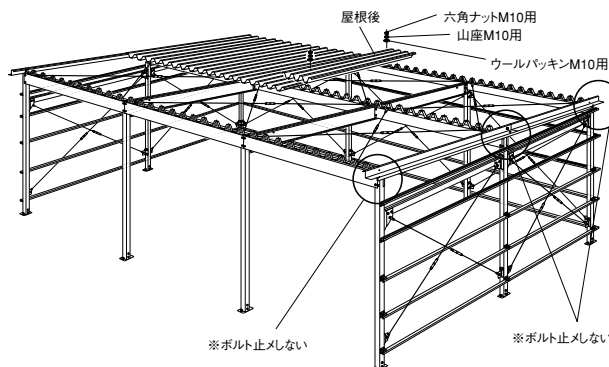
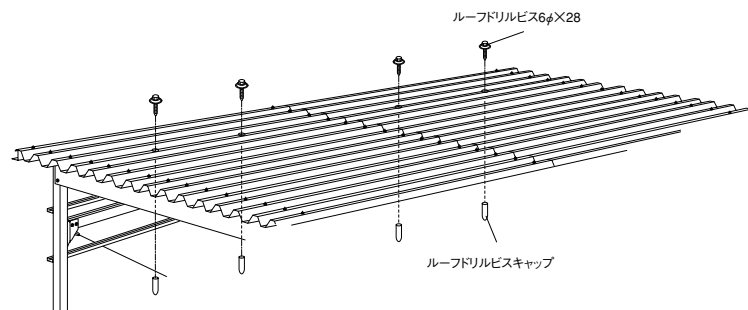
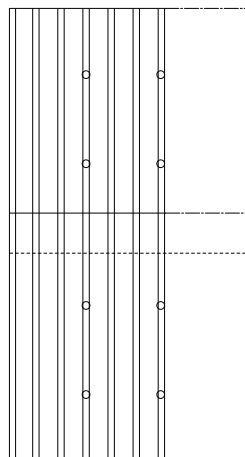
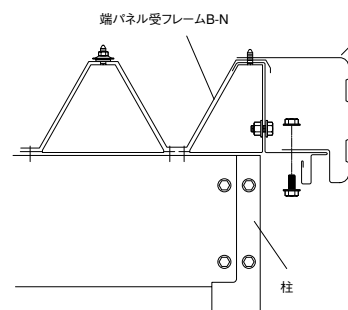
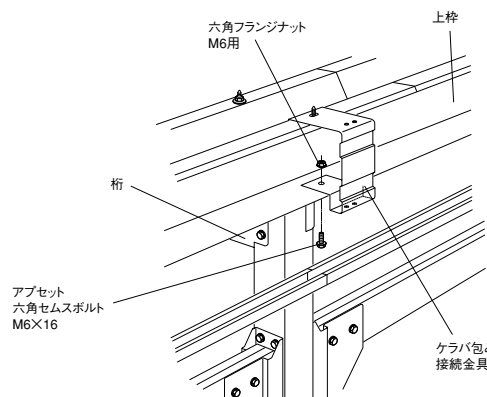
※SOBU-8657M型

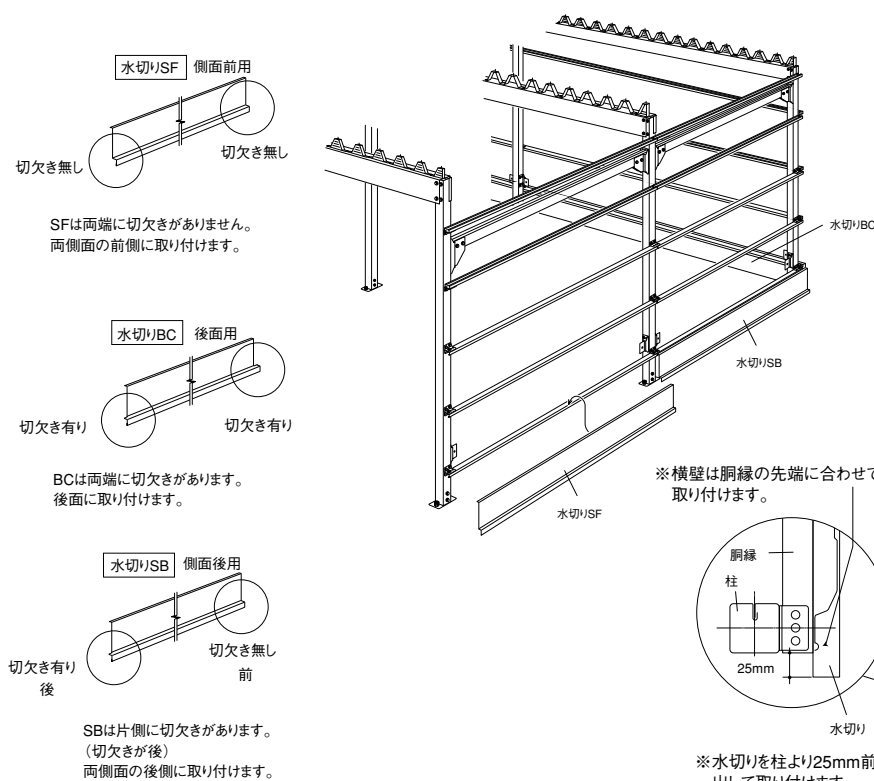
※組立説明書1・2の順で組立てください。

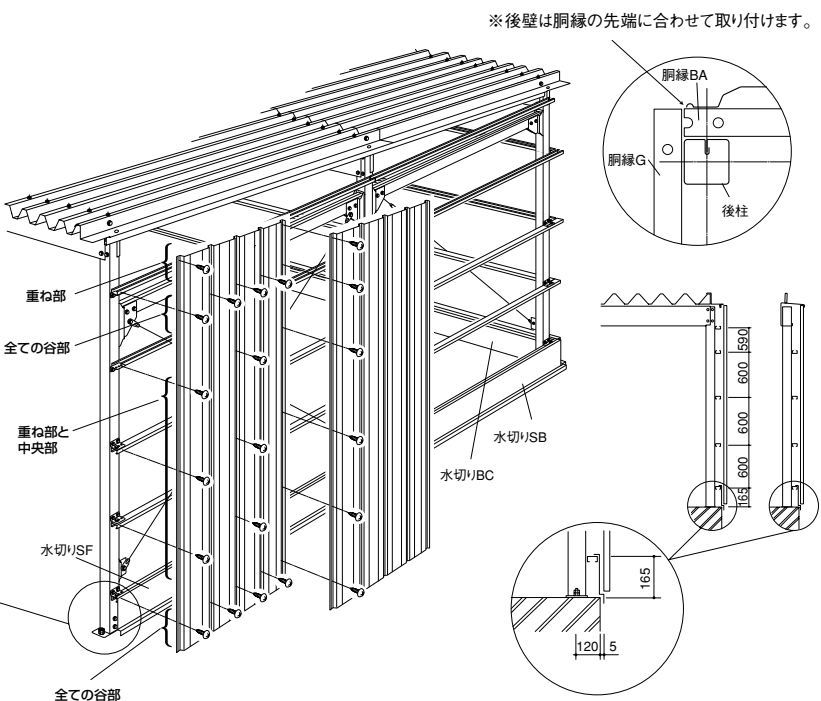
9 屋根及びケラバ接続金具

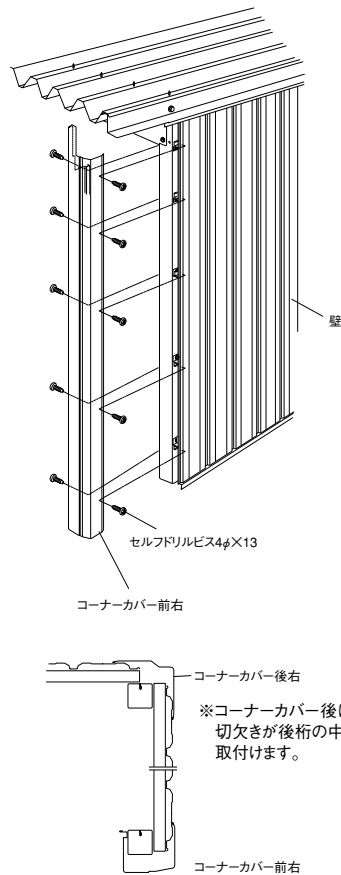
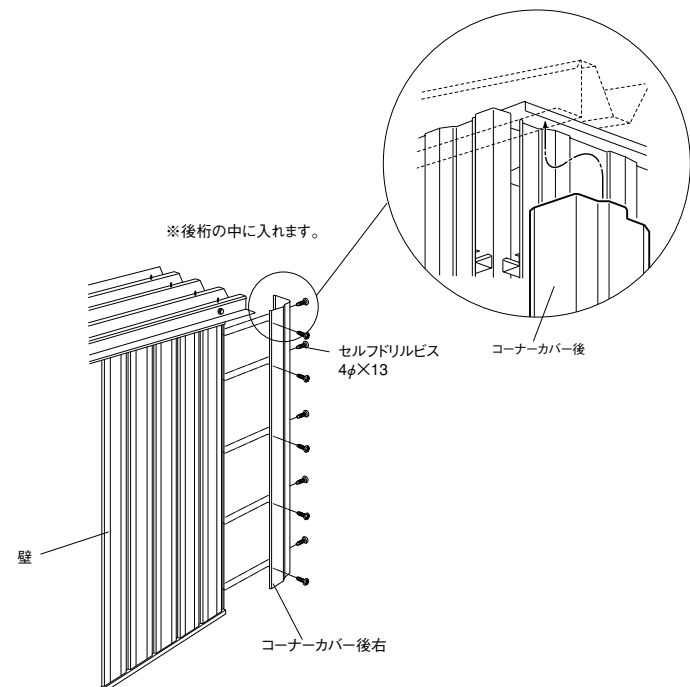
①屋根後をパネル受フレームの剣先ボルトに取り付けます。
②屋根後を取り付け終わったら、図のように屋根防水パッキンを取り付け谷部をコーキングします。

▶屋根は前と後の2分割になっていますので、屋根の重ね部には、防水パッキン、コーキングを必ず施してください。

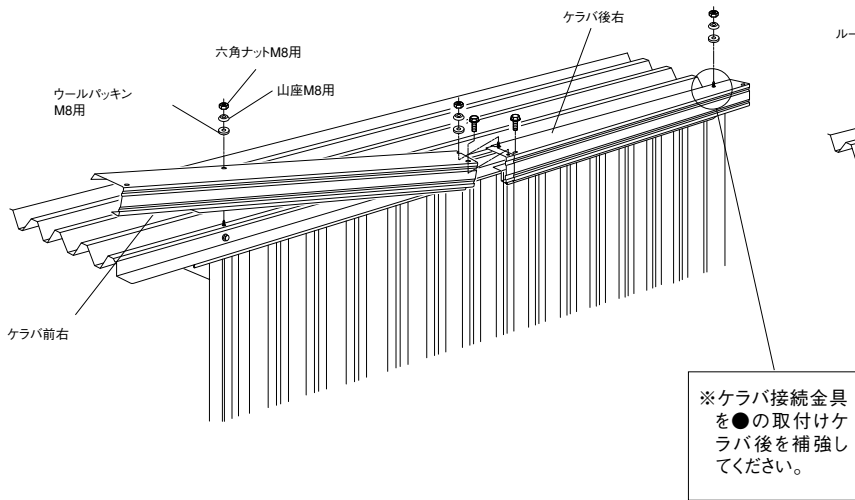
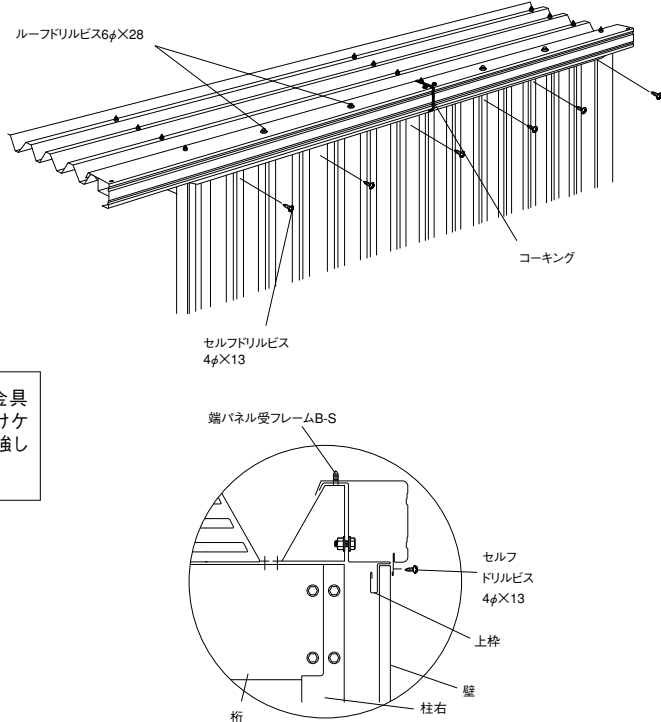
⚠注意
●屋根に上る場合は、転倒、転落等に十分注意してください。
●屋根の重ね部を締結するまで、重ね部には絶対に乗らないでください。

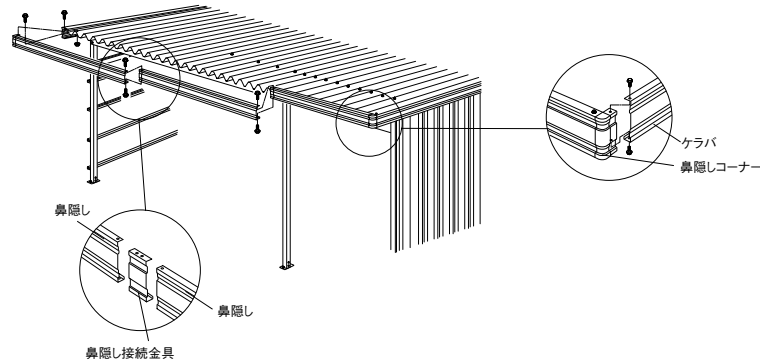
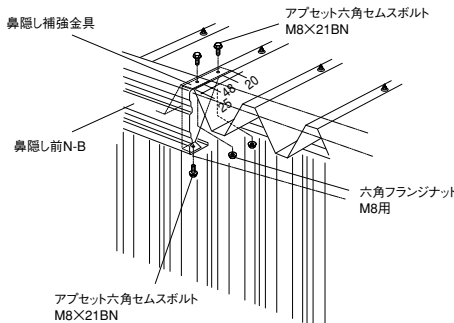
③屋根前を同じようにパネル受フレームの剣先ボルトに取り付けたら、両端部を残し止結します。
（ウールパッキンM10用、山座M10用、六角ナットM10用）
※端パネル受フレームB-Sは止結しないでください。ケラバと同時に止結します。

④屋根を固定した後、屋根重ね合わせ中央部をフレーム間で2ヶ所止結します。室内側よりキャップをかぶせます。
（ルーフドリルビス6ϕ×28、ルーフドリルビスキャップ）

⑤ケラバ包み接続金具を中桁の端パネル受フレームB-Nの剣先ボルトに差し込み、上枠と取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM6×16、六角フランジナットM6用）

10 水切り及び壁

①水切りを一番下の胴縁に仮預けします。
水切りSFは側面前側・水切りSBは側面後側・水切りBCは後面に配置してください。
※水切りSFは胴縁より約25mm程度前に出してください。

※壁を固定するドリルビスは、止める位置を間違えると数が足りなくなる場合がありますので注意してください。

①横壁を前から順に胴縁（胴縁A）の先端に合わせ取付けます。（セルフドリルビス4ϕ×13）
※横壁のドリルビスは、上枠部は重ね部のみ、一番上と一番下の胴縁部は全ての谷、それ以外の胴縁部は重ね部と中央部のみの固定となります。
②後壁を後から向かって右側から、胴縁（胴縁BA）の先端に合わせ順に取付けます。
（セルフドリルビス4ϕ×13）
※後壁のドリルビスは、後桁部は重ね部のみ、一番上と一番下の胴縁部は全ての谷、それ以外の胴縁部は重ね部と中央部のみの 固定となります。

11 コーナーカバー

①コーナーカバー前右及び前左を前柱右及び左に取り付けます。
（セルフドリルビス4ϕ×13）

②コーナーカバー後右及び後左を後柱右及び左に取り付けます。（セルフドリルビス4ϕ×13）
※コーナーカバー後は取り付けの向きに注意してください。

12 ケラバ

①ケラバ前右、後右をパネル受フレームの剣先ボルトに取り付けます。
（ウールパッキンM8用、山座M8用、六角ナットM8用）
②中央部分はケラバ包み接続金具に差し込み取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM6×16BN）

③ケラバのフランジ部を前後各3ヶ所固定します。
（セルフドリルビス4φ×13）
④屋根の重ね合わせ部と同様にケラバの中央部をフレーム間で2ヶ所止結します。室内側よりキャップをかぶせます。（ルーフドリルビス6φ×28、ルーフドリルビスキャップ）
⑤ケラバ前と後の接続部をコーキングしてください。

13 鼻隠し

①鼻隠しコーナーを、鼻隠し前・後に取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM6×16BN ）
※鼻隠しコーナーの上下の向きに注意して取り付けてください。
※連棟の場合、鼻隠し前又は鼻隠し後は鼻隠し接続金具で接続します。
（アプセット六角セムスボルトM6×16BN ）
②鼻隠し前をケラバと接続し、屋根と鼻隠しコーナーにボルト止めします。
（アプセット六角セムスボルトM6×16BN、六角フランジナットM6用 ）

③連棟の場合、鼻隠し補強金具を鼻隠し前N-Bに取り付けます。
屋根には、鼻隠し補強金具に合わせて10φの孔を明けてください。（アプセット六角セムスボルトM8×21BN、六角フランジナットM8用）

14 シャッター

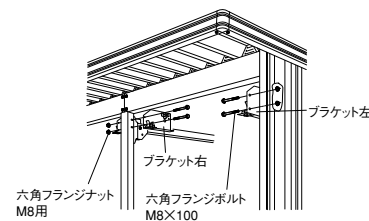
※シャッターの取り付けは、屋根を取り付けた後で行ってください。
※リモコンシャッターの場合も同様の手順で進めて下さい。ただしシャッターシャフト部の配線はシャッター工事店が行いますので配線部品には、ふれないで下さい。詳しくはシャッターシャフト梱包内の組立説明書を参照してください。

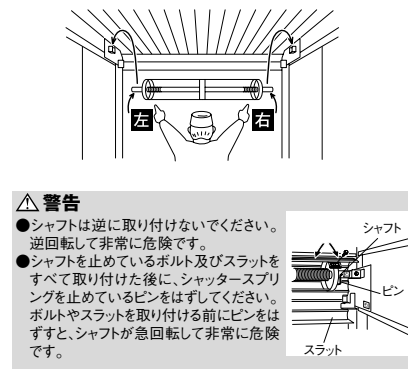
①前板を桁に取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用）

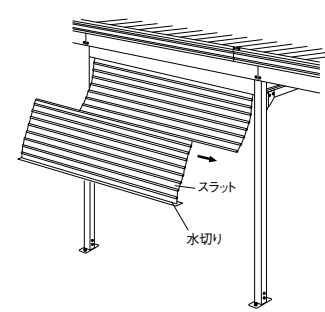
②シャッターブラケットを前柱に取り付けます。
また、ブラケットと前板を固定してください。
（六角フランジボルトM8×100、六角フランジナットM8）
※シャッターブラケットは必ず水平になるように取り付けてください。

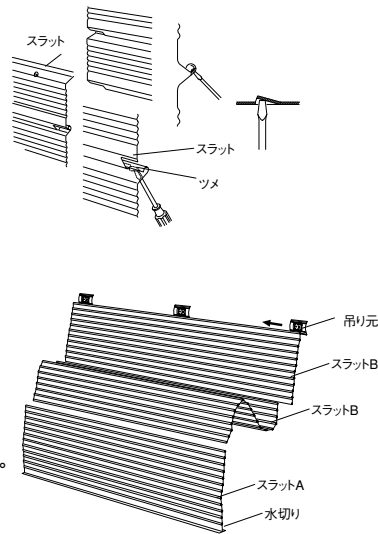
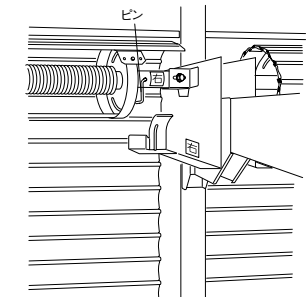
ブラケットの（右）、（左）は、内部より見た位置を表示してあります。

③シャフトの左右に注意して、ピンが手前に来るようにブラケットに取り付けます。（取り付けボルトはブラケットに仮止めしてあります。）
※この状態ではピンは抜かないでください。

シャフトの（右）、（左）は、内部より見た位置を表示してあります。

倉庫の部材の右・左は、外部正面から見て右・左を示しますが、シャッター部材のみ倉庫室内側より見て右・左となっていますので、間違えないように取り付けてください。

⚠ 警告
●シャフトは逆に取り付けないでください。逆回転して非常に危険です。
●シャフトを止めているボルト及びスラットをすべて取り付けた後に、シャッタースプリングを止めているピンをはずしてください。ボルトやスラットを取り付ける前にピンをはずすと、シャフトが急回転して非常に危険です。

シャフト
ピン
スラット

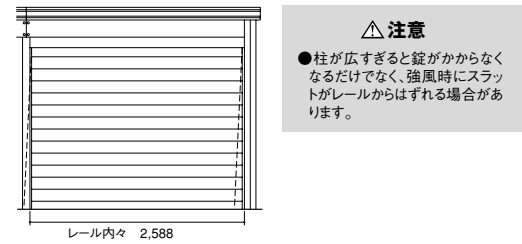
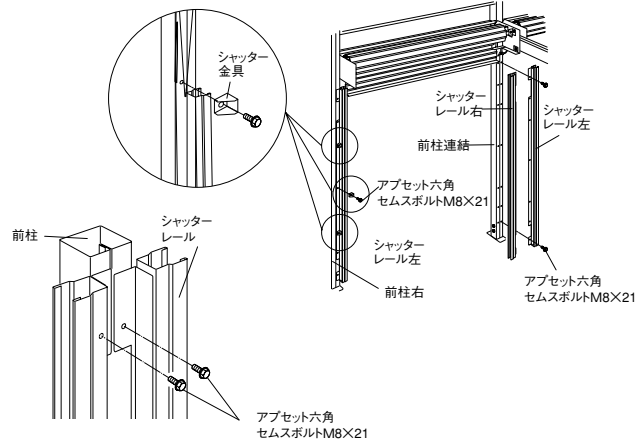
④錠、水切り付のスラットを吊り元側に差込、**両端のツメ出して固定します。**

⑤シャフトを少し回転させた状態でピンを抜き取ります。
※ピンを抜く時は、必ずスラットをおろしてください。

スラット
スラット
ツメ
吊り元
スラットB
スラットB
スラットA
水切り

▶スラットは取り付け工事を楽にするためにL・M・Hタイプで2分割、FHタイプで3分割となっています。スラットとスラットを平行に差し込み、ツメをペンチ、ドライバー等で起こし、ずれないようにしてください。

⑥スラットをおろし、柱とゆがみが無いか確認します。ゆがみがある場合はブレースで再度本体の建ちを調整してください。
※柱の傾きが5mmを超えるとシャッターの開閉に、支障をきたす場合がありますのでサゲフリ等で寸法の確認を必ず行なってください。

シャフトの（右）、（左）とスラットがガイドに入っているか確認してください。

尚、レール間ピッチも上下とも5mm内で施工してください。

⚠ 注意
●柱が広すぎると錠がかからなくなるだけでなく、強風時にスラットがレールからはずれる場合があります。

⑦シャッターレールを柱に取り付けます。
（アプセット六角セムスボルトM8×21）
この時、シャッター金具を図のように共締めします。
※左、右各3個ずつをレールの中間部に取り付けます。

15 コーナーカバー前中

①連棟タイプの場合、最後にコーナーカバー前中を取り付けます。

以上で完成です。

部品箱の中の取扱説明書はお客様に必ずお渡しください。

（SOBU-8657）2

2007.8月制作